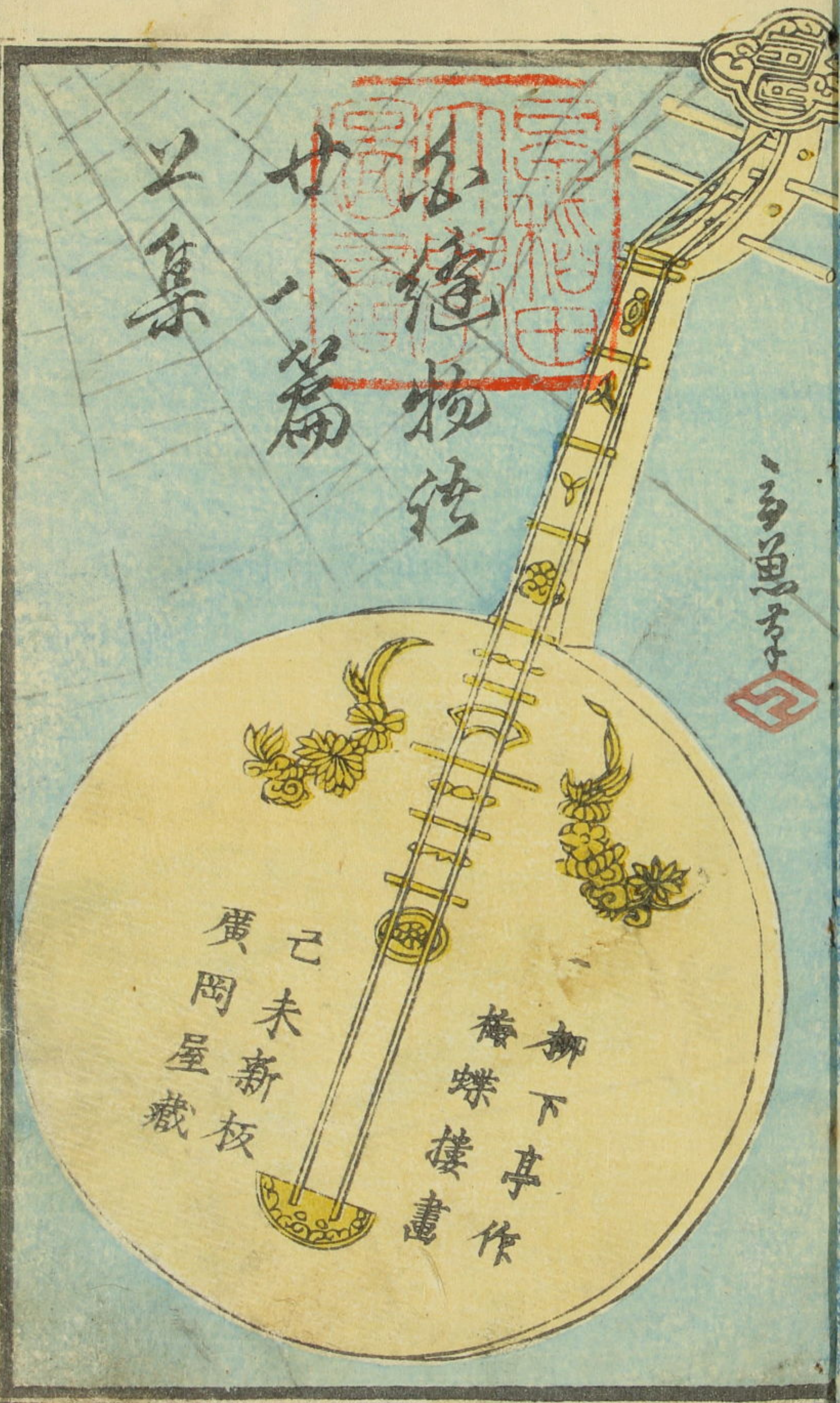


^ 13
3838
7



門 へ 13
號 3838
卷 7

上集
八篇
名物結



八八四七

己未
岡屋
藏

柳下亭
作
梅蝶樓
畫

不

廿八編下



種彦作
國貞畫

志云
總
物
語

升題曲多國貞



上編八廿

板
業
層



廿七編下

外題曲三國鳥

國貞画

白縫禪

柳下製本

廿七編上





鳥山秋作 又女
のてら

曲五團画

白種

員作

種

員

作

種

員

作

種

員

作

柳

下

柳

下

柳

下

柳

下

廿七梅下



東山殿御息女高麗姫

曲多田岳



若州多田岳

若州多田岳
怪猫室町
御所小於
殿上を騒がす

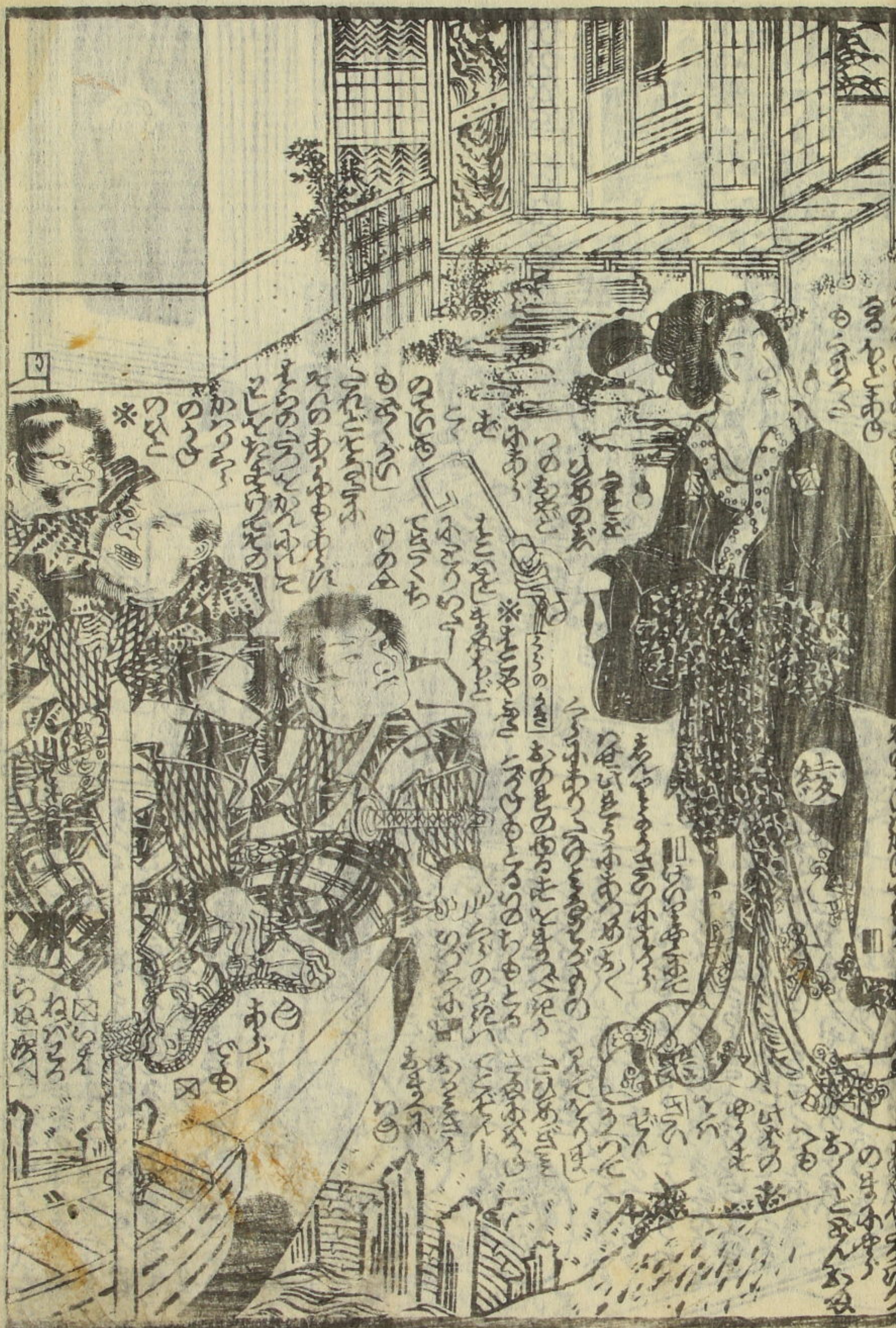


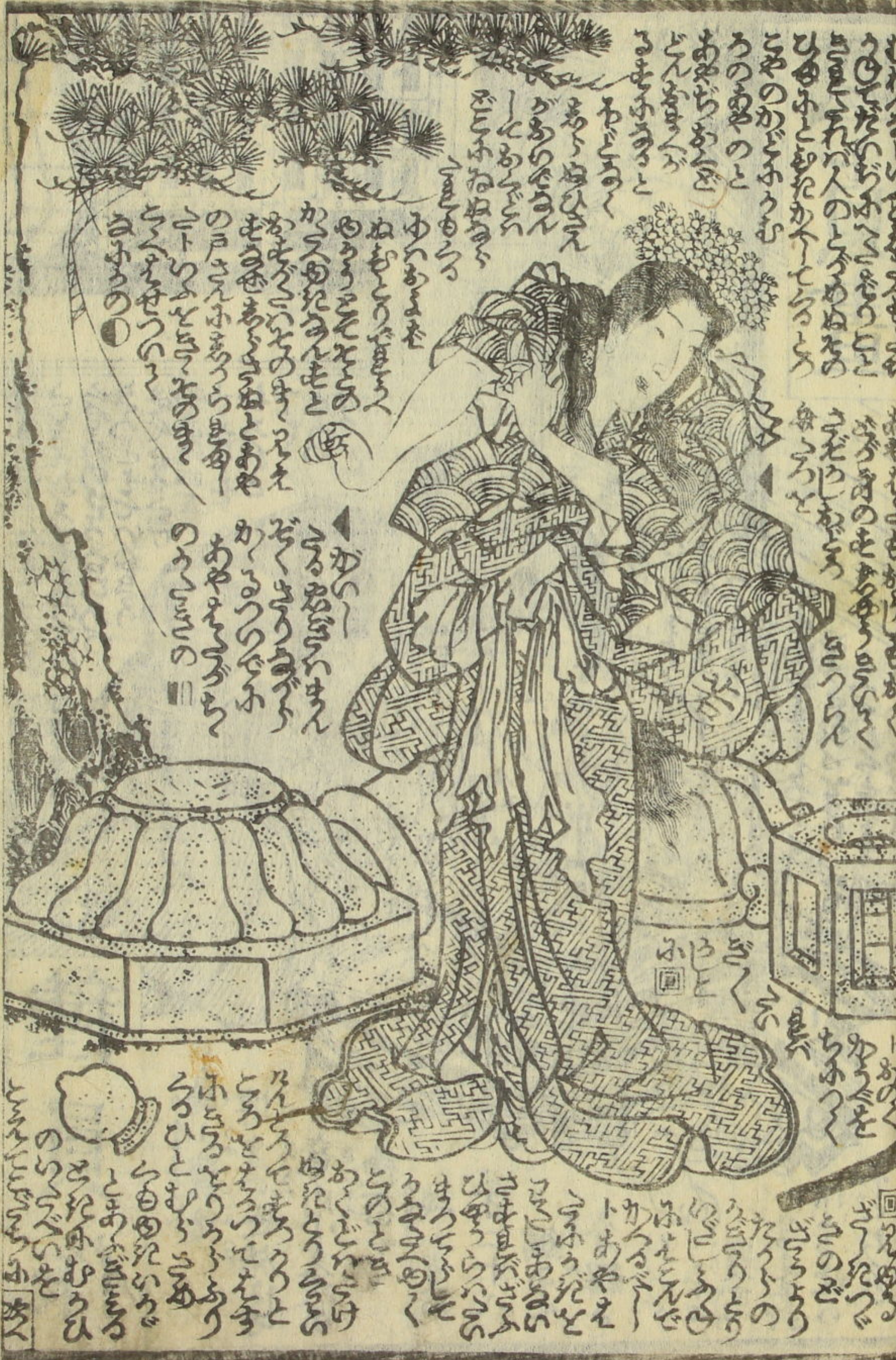
龜谷多門之助光行

虎を画く猫小類たるは伎の拙ありきりて猫を描きたるは大史と視え
 ても補景の蝶ハ睡を覚くと懼ん猫ハ猫と云ふことを宜しき字力ある
 釋官のち手爾遠波語格假字用例引各の古言故事来釋誤誤
 訂されしるハ盡善美ありて舞節を撥正宗の短刀指とや切んと最非愛
 耳熟ぬ詞遣正史の事實ハ俗小疎く琴笛ハ酒酌ハ行院詞曲の脚色を
 竊傳奇の語調ハ似て様々の戲作の本意と拙と守りて粵小十年廿七編
 も年明を惜まれしを人も花文ハ然るに實の元も看客紛々が筆具利ハ
 出精仕本編がハ牛と誅戮の大場ハ綴文の作画の愛敬と於菟の威と
 飯々次編の花姑退治首繪ハ掲るもこと舊しれど猫と画く枚子とも晒
 是ぬれば此年頃誰もぬハの譚是を學者の真似とせぬ其徳も有べくや

安政五年戊午夷則卒業
 同 六年己未仲春開市

柳下亭種員記





Handwritten text in the upper left section, including the characters '松' (pine) and '竹' (bamboo), likely describing the scene or the objects.

Handwritten text in the middle left section, continuing the narrative or description.

Handwritten text in the lower left section, positioned below the tiered object.

Handwritten text in the bottom left section, including a small circular diagram or seal.



Handwritten text in the upper right section, surrounding the man's head.

Handwritten text in the middle right section, surrounding the man's torso.

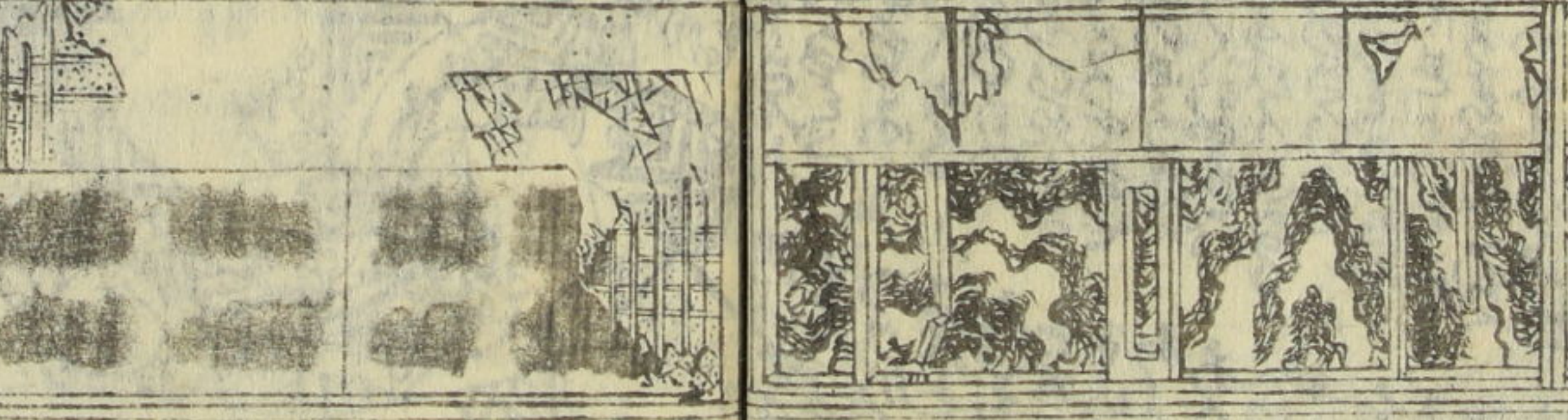
Handwritten text in the lower right section, surrounding the man's legs.

Handwritten text in the bottom right section, including a small circular diagram or seal.

あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき



あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき

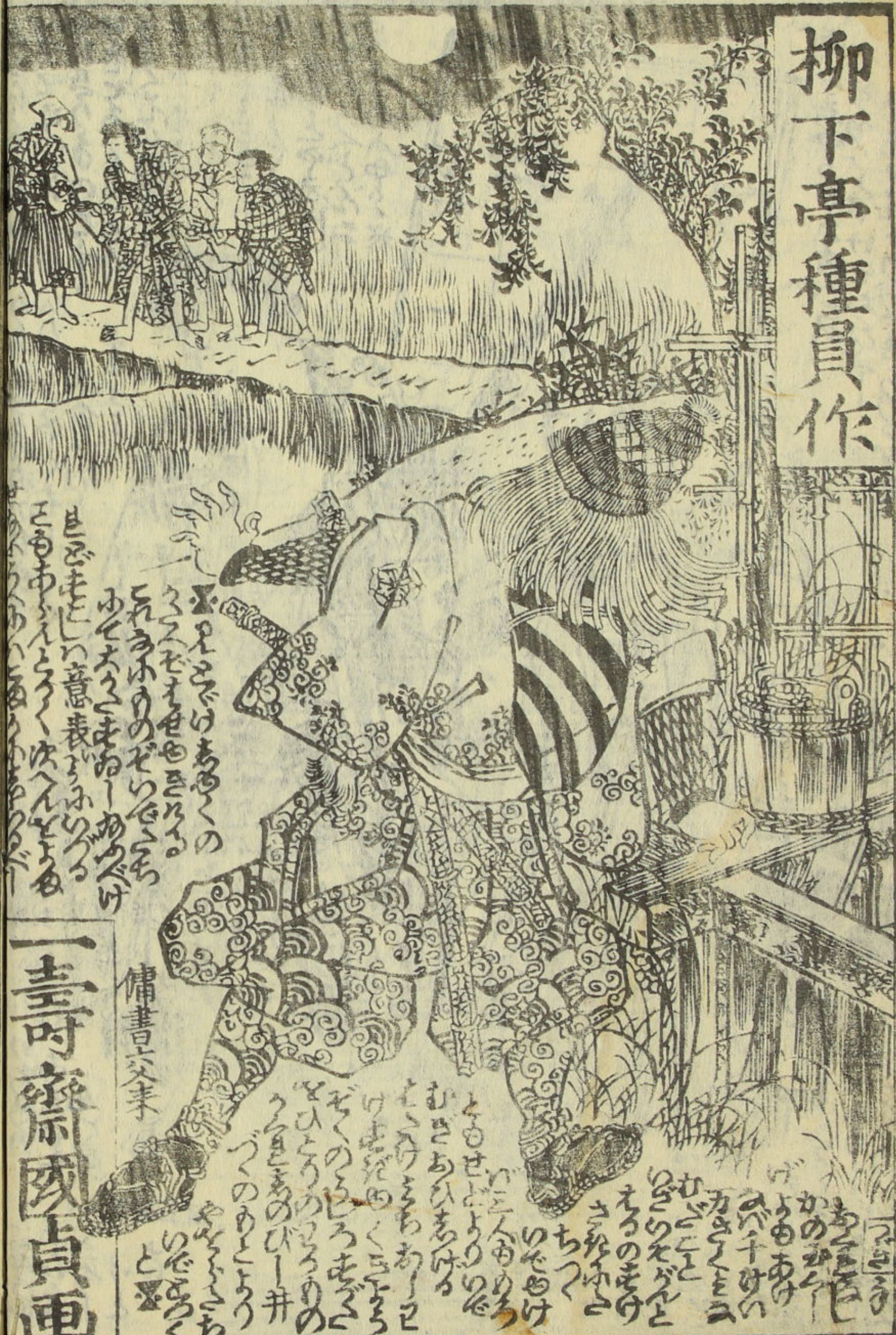


あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき



あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき
あせぬまのひらき

柳下亭種員作



一壽齋國貞画

備書六本

玉をさしあはるゝの
 こころをせむるは
 ちかきゆりのぞいふ
 ちかきゆりのぞいふ
 ちかきゆりのぞいふ
 ちかきゆりのぞいふ

あつちの
 かみかみ
 ちかきゆりの
 ちかきゆりの
 ちかきゆりの
 ちかきゆりの

往昔神武天皇の御宇葛城山の土蜘蛛の自己糸めて業を営む身
 に有る葛網を搦捕まゝと物を損ふ糸を用ひ人小擒り
 網を脱ぎ平自業自得といふやうに而耳吾白縫も筆小信蜘蛛の業とい
 なむやふ手の速ぶ丈四方八面へ眼を配て佳種をふつけ次第小引懸あま
 時と揮て脚色とあすの件の蟾子の所業小作れど運筆の渠が身の
 軽き似ぬのみあまで廣げ一多端結寄る満尾の地の甚難苦く今
 か胸の安かぬの羅をらりのが自己罷ふかに等しと嘆息するは
 蟾蛸の術乃糸を文章とる

安政七年庚申新刊

柳下亭のあらど
種員ありなり



あつちの十八



三十三の山
冬加松
後八郎武門
真龍の戸



曲る五回

清光 尼

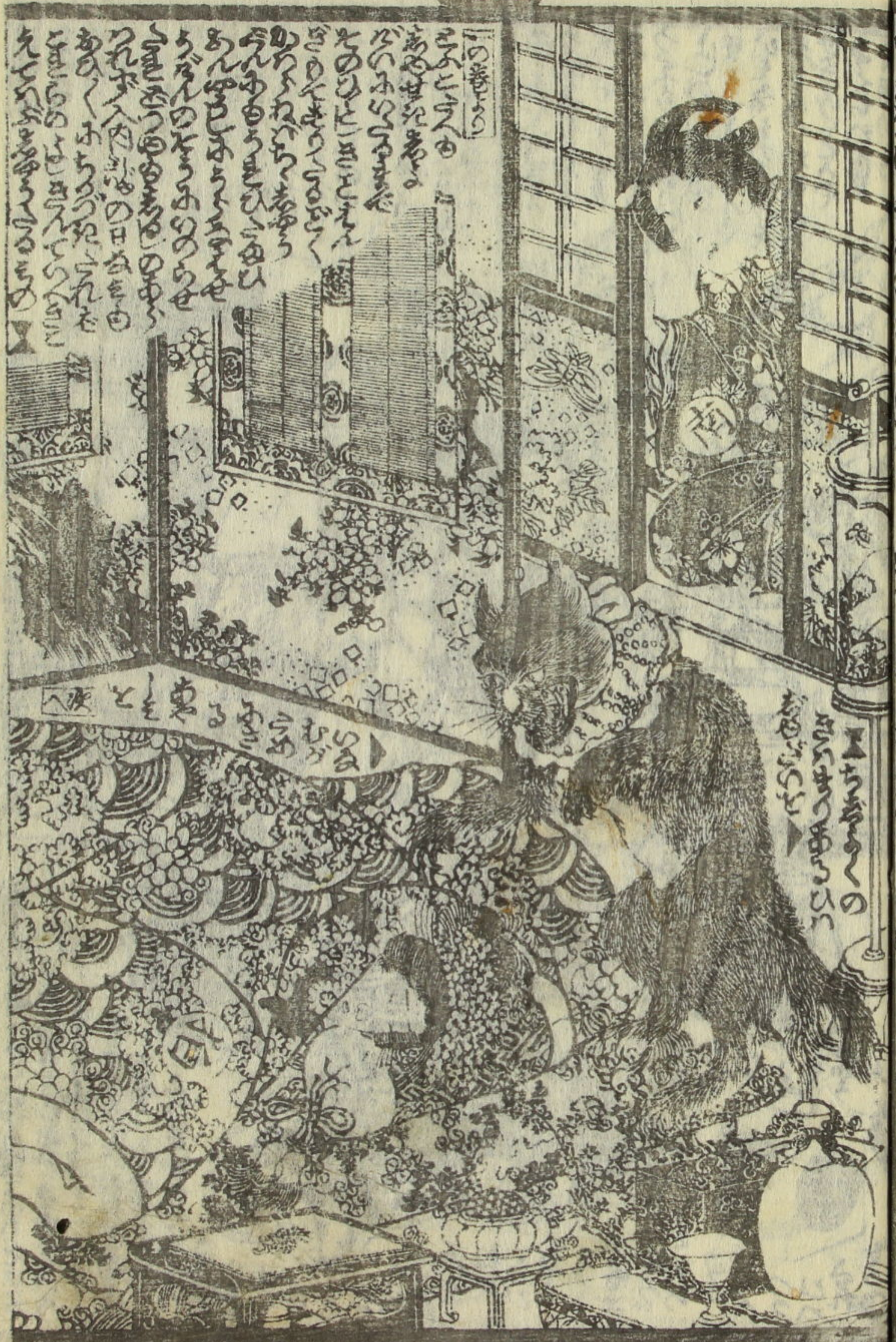
光清の尼



廿七編の鳥山
 豊後 保世
 光清の尼
 ...
 ...
 ...

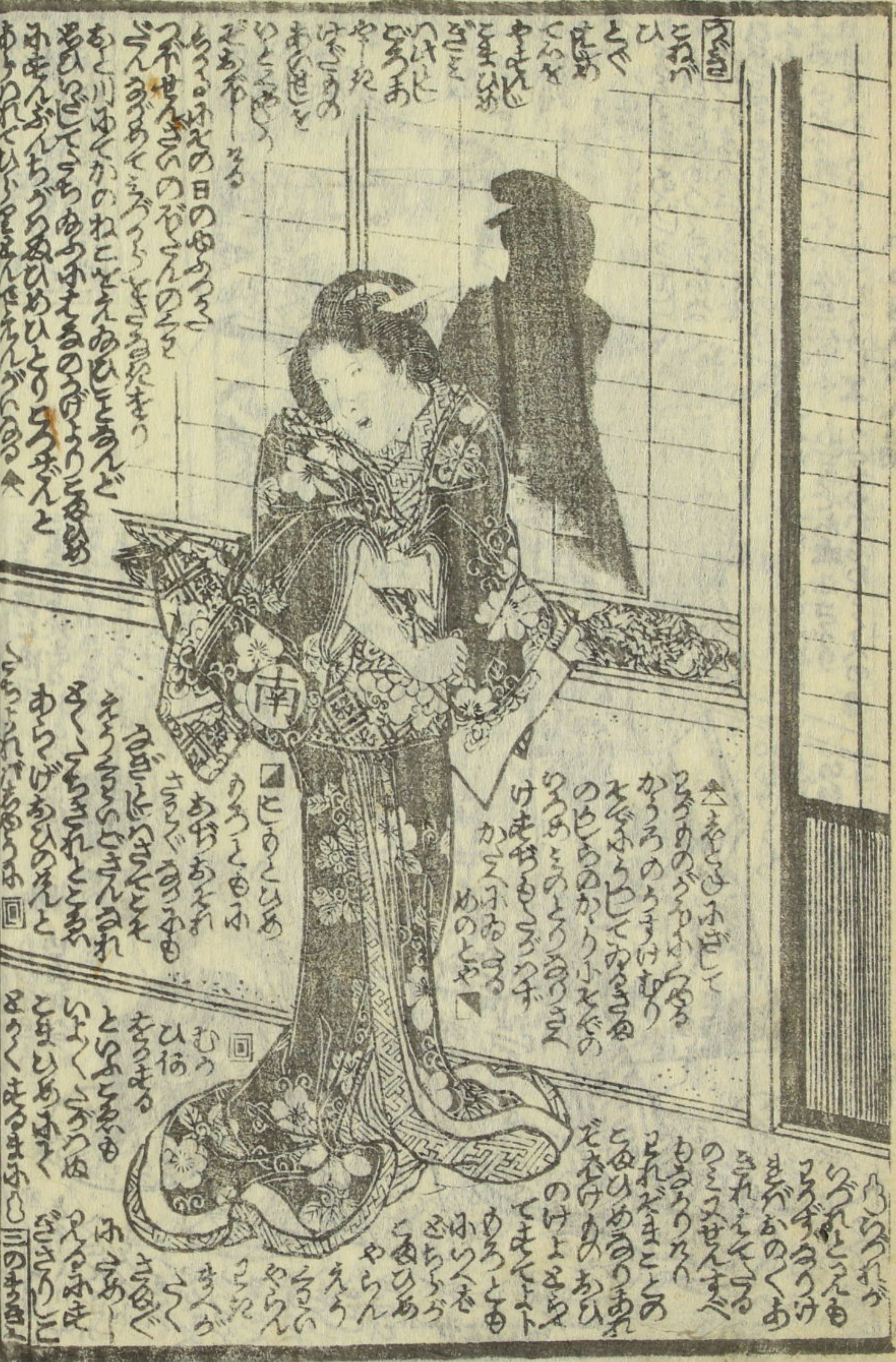
光清の尼

光清の尼



Vertical columns of Japanese text on the left side of the upper illustration.

Vertical columns of Japanese text on the left side of the lower illustration.



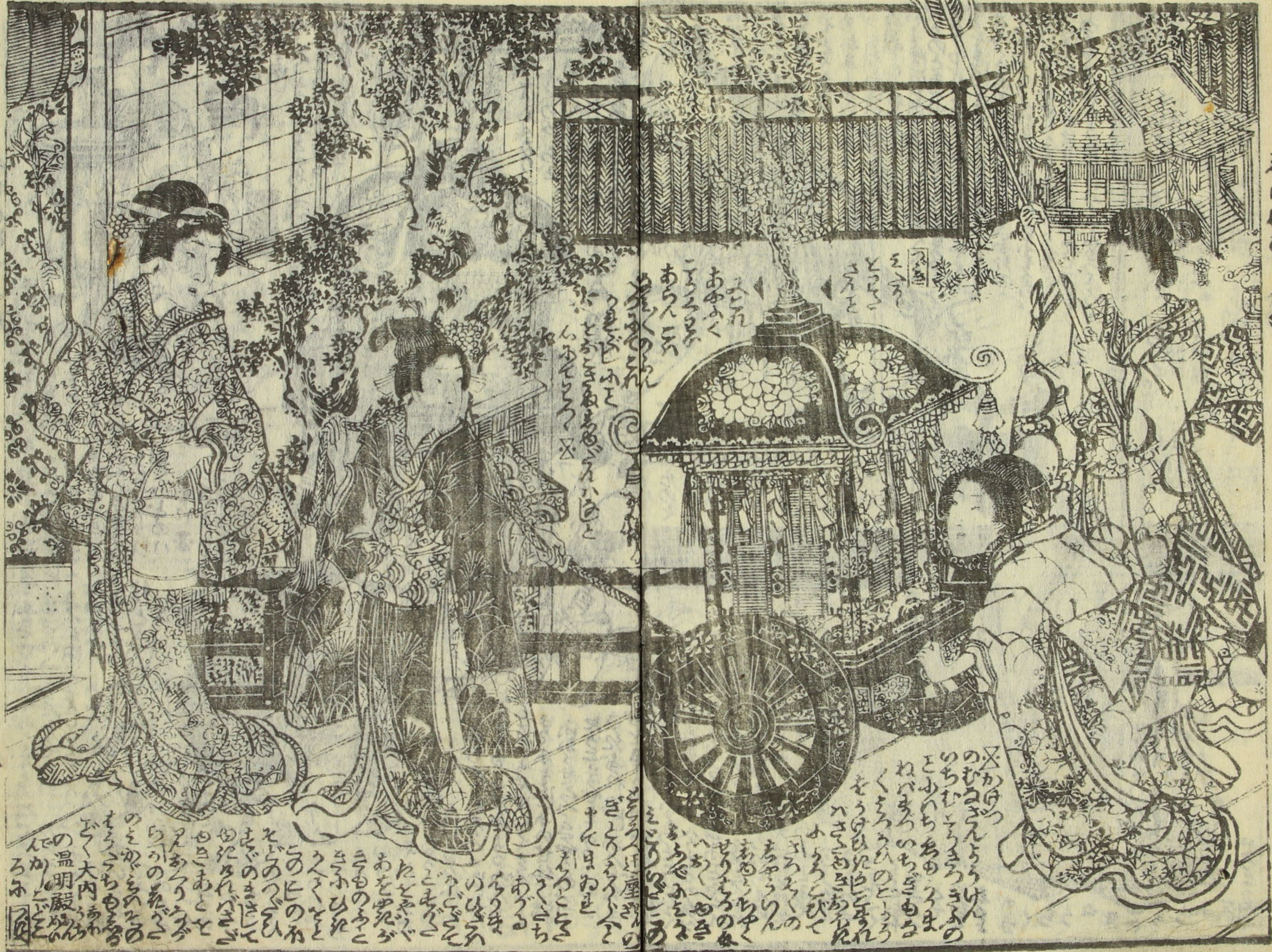
Vertical columns of Japanese text on the left side of the upper illustration.

Vertical columns of Japanese text on the left and right sides of the lower illustration.

豊後刑部等左右小
長臣のよ由あるはれ
と文中の用あり
画の興



豊後刑部等左右小



大内侍の御用

おのれ

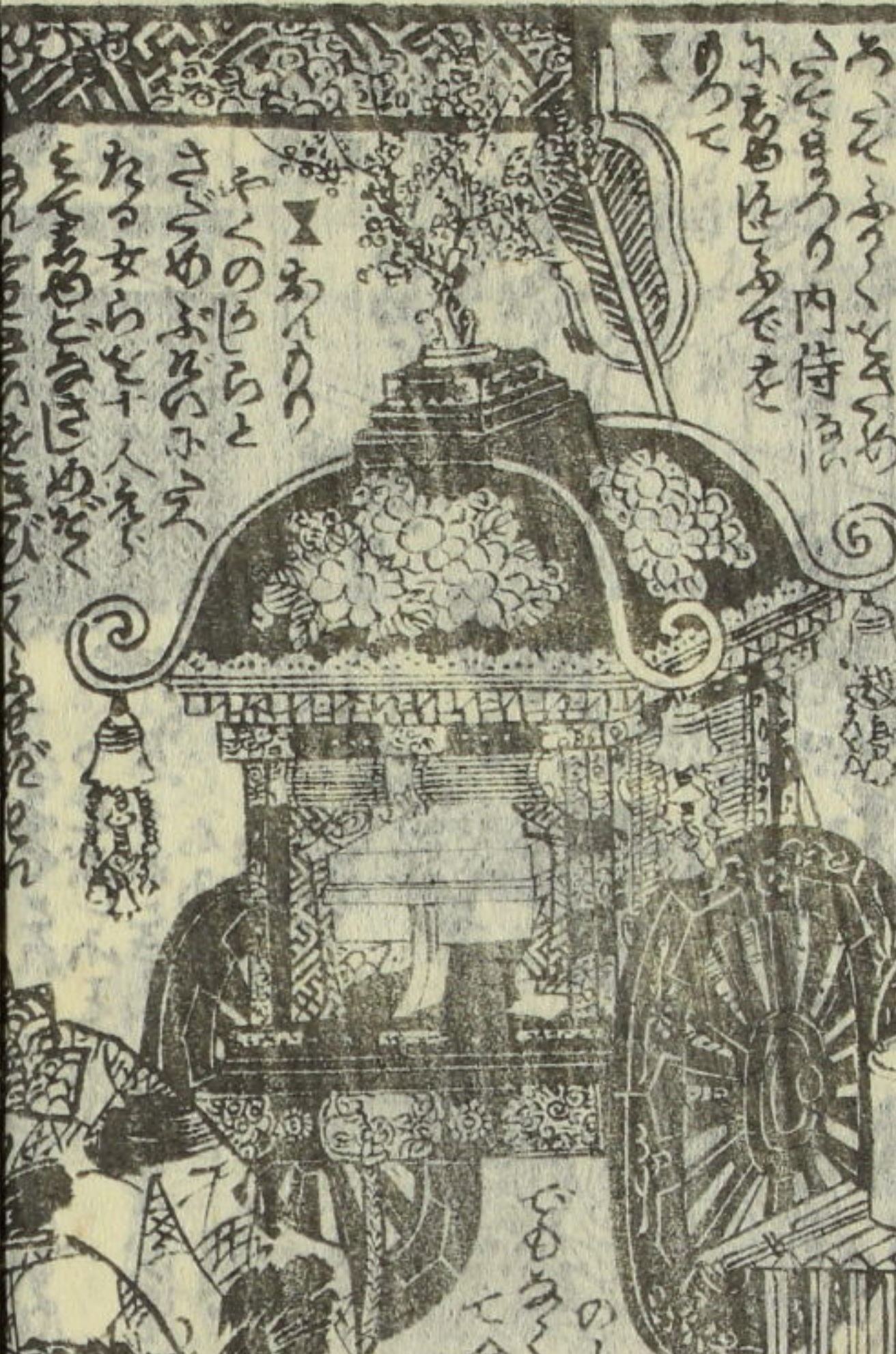
あはれ
あふく
あらん
あはれ
あふく
あらん
あはれ
あふく
あらん

大内侍の御用
おのれ
あはれ
あふく
あらん
あはれ
あふく
あらん
あはれ
あふく
あらん

あはれ
あふく
あらん
あはれ
あふく
あらん
あはれ
あふく
あらん



あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの



あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの



あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの



梅蝶樓國貞画
 此の図は、江戸の茶屋や酒場の様子を描いたものである。前景には、茶を淹めるための道具や、客が座すための障子や畳が描かれている。背景には、調理場や道具棚が見え、活気ある日常の光景が表現されている。

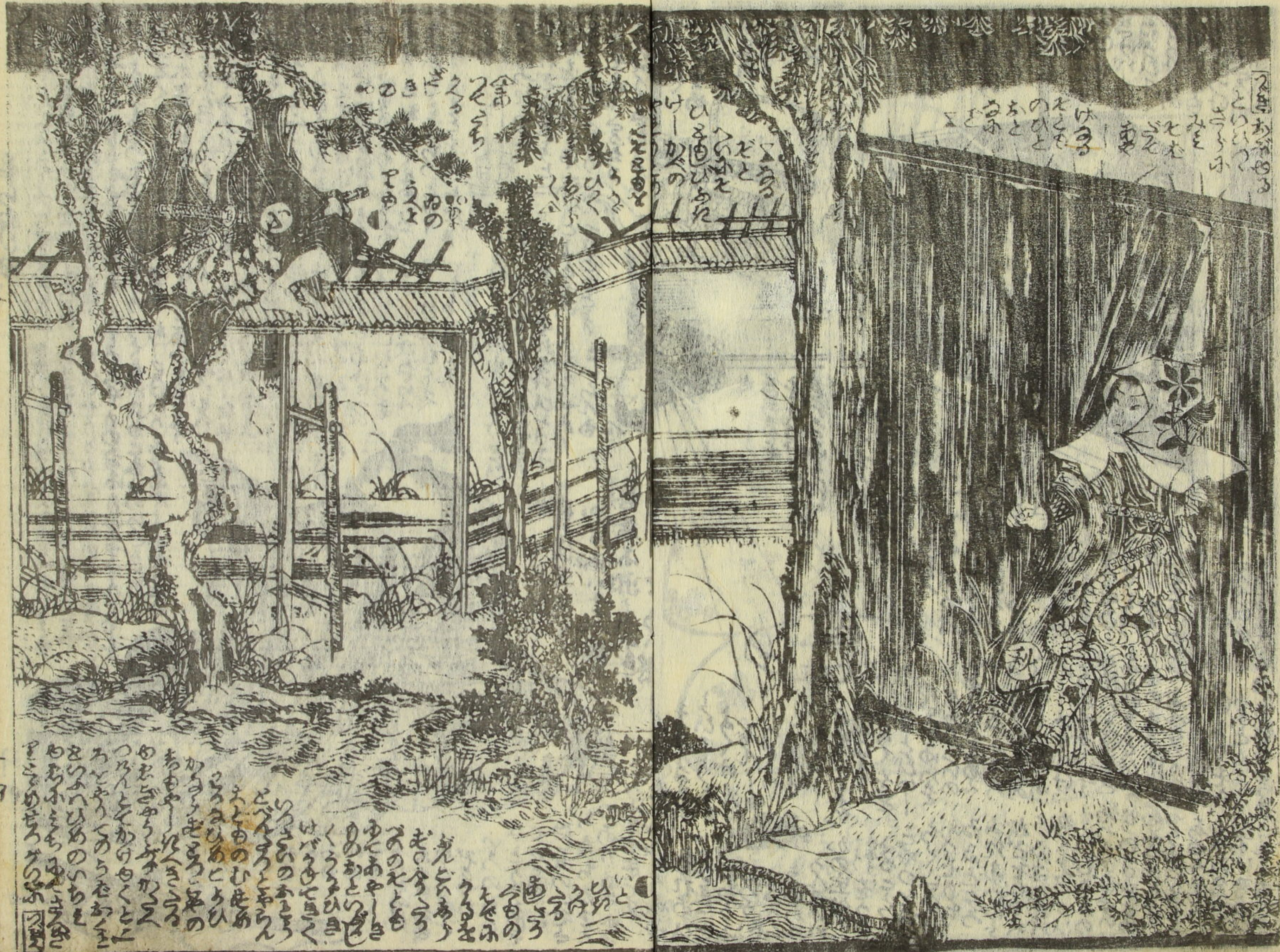
梅蝶樓國貞画



柳下亭種員作
 この図は、柳下亭の種員を描いたものである。彼は、格式高い着物を身にまとい、威風凛々とした姿を現している。背景の窓からは、外の光景が透り、室内の静寂と対比している。

梅蝶樓

十



あまのこころ
つらさき
あまのこころ
つらさき
あまのこころ
つらさき

あまのこころ
つらさき
あまのこころ
つらさき
あまのこころ
つらさき

あまのこころ
つらさき
あまのこころ
つらさき
あまのこころ
つらさき

あまのこころ
つらさき



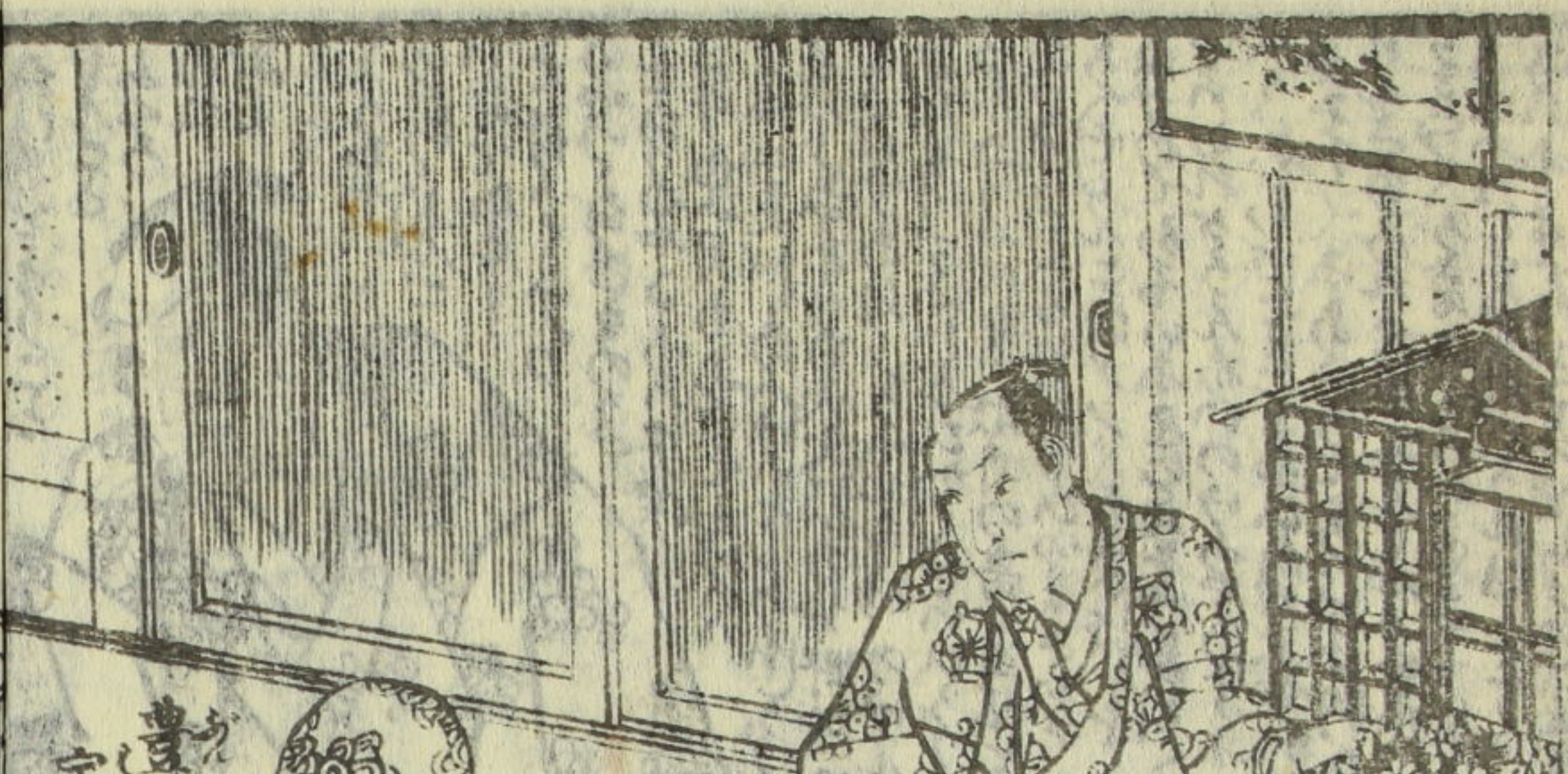
博多陣

花の表



ひまふら...
お力ねが...
あはれさく...
えんい...
あはれさく...
えんい...
あはれさく...
えんい...

あはれさく...
えんい...
あはれさく...
えんい...
あはれさく...
えんい...
あはれさく...
えんい...
あはれさく...
えんい...



豊後一子...
宝鏡...
の...

あはれさく...
えんい...
あはれさく...
えんい...
あはれさく...
えんい...
あはれさく...
えんい...
あはれさく...
えんい...

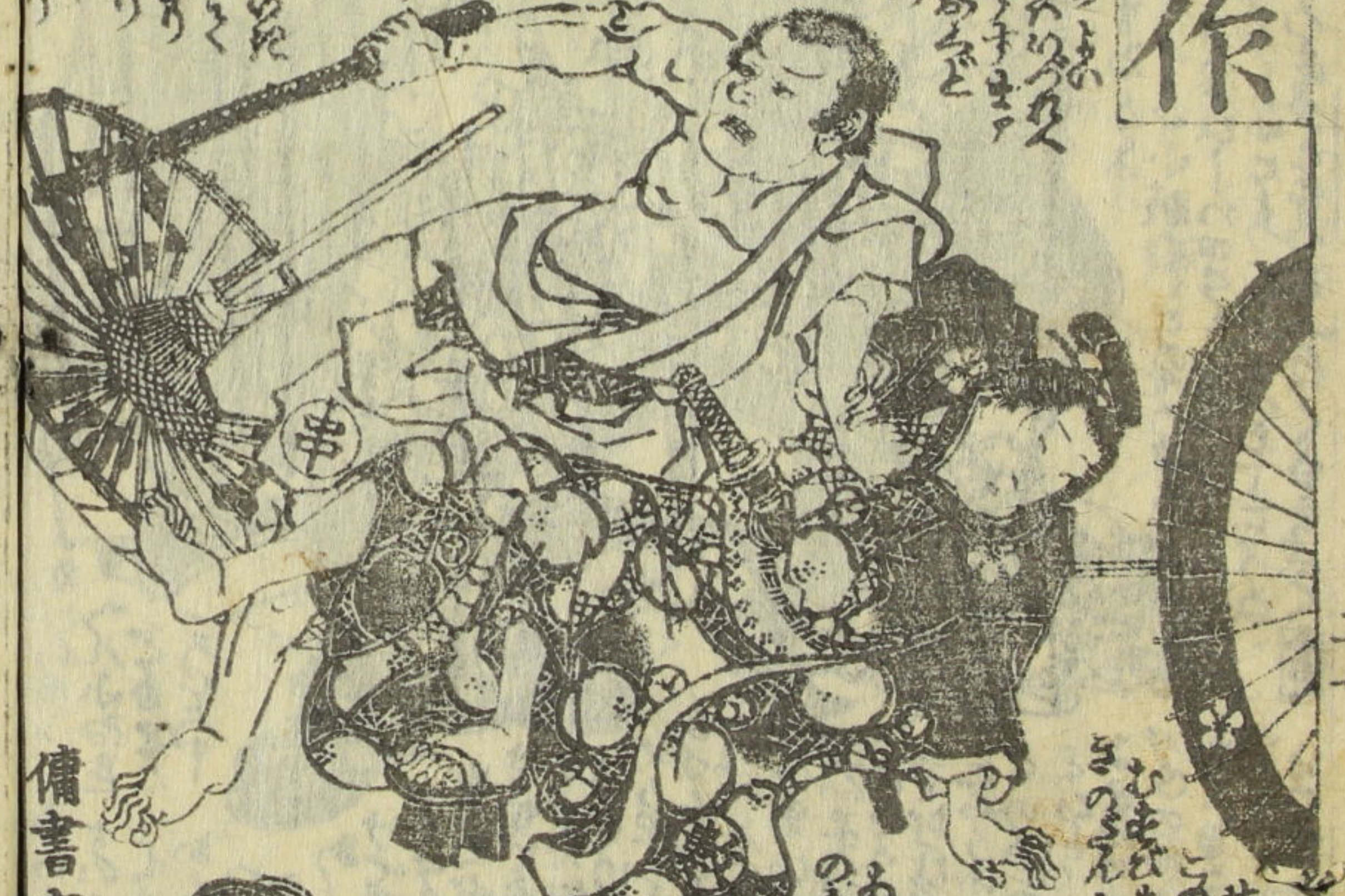
あはれさく...
えんい...

あはれさく...
えんい...

あはれさく...
えんい...

國貞画種員作

此の巻は、國貞の画種員作の巻である。其の巻の初めに、國貞の自序があり、其の巻の終りに、種員作の巻名がある。



世に傳へたる書物は、其の巻の初めに、國貞の自序があり、其の巻の終りに、種員作の巻名がある。

假名讀八犬士傳

自初編
至二十七編

此の巻は、假名讀八犬士傳の巻である。其の巻の初めに、八犬士傳の巻名があり、其の巻の終りに、假名讀の巻名がある。

元治紀元甲子之末

此の巻の初めに、國貞の自序があり、其の巻の終りに、種員作の巻名がある。

